

## 国、電力、県知事を止めるのは住民意思

反原発・かごしまネット代表 向原祥隆

伊藤祐一郎鹿児島県知事は、今年1月6日の年頭会見で、6月県議会で川内原発の再稼働について判断する旨表明しました。規制委員会の審査終了後、国による説明会を3回アリのバイ的に開催し、議会でゴーサインを出すというシナリオです。

予想通り3月13日、原子力規制委員会は、九州電力川内原発1、2号機を優先的に審査することを決めました。川内を皮切りに、日本中の原発を再稼働させるというわけです。

### 火山・活断層問題を規制委は無視

鹿児島の火山は桜島が有名ですが、実はいくつものカルデラがあります。あたりを一瞬にして焼き尽くす大規模火砕流に襲われる可能性があります。川内原発には、2万7千年前の入戸火砕流、10万5千年前の阿多火砕流、33万年前の加久藤火砕流が到達しています。

九電は予測できると言いますが、何の根拠もありません。

2013年2月、政府・地震調査委員会は、九電のこれまでの活断層評価を大幅に見直す報告書を公表しました。さらなる追加調査を求め、今回評価した断層についても川内原発に一層近く可能性を示しています。そのほか、川内原発直近1kmの川内川河口推定断層、この2月に炉心から800mの林道に発見された破砕帯を伴う断層の問題もあります。こうした様々な問題について、規制委は九電の報告をうのみにするだけで、何ら自ら調査していません。

### 驚くべき避難計画

4月末から出水市を皮切りに、避難計画の説明会が30km圏内の9自治体で順次開催されています。しかし、その中身は酷いものです。渋滞予測なし、入院患者や老人施設の入居者の受け入れ先もない、学校の子どもたちを避難させるバスも運転手もない。県や市の担当者は、これから充実させると繰り返すのみ。説明会と言うよりも、避難計画の不備を露呈させる会と言うべきものでした。

### 薩摩川内市に隣接、いちき串木野市で全戸別訪問署名開始

こうした中で、大多数の住民が反対している事実を可視化する取り組みが開始されました。薩摩川内に隣接するいちき串木野市に立ち上がった緊急署名の会が、全人口の過半数の署名を目指すというもの。署名タイトルは「市民の生命を守る避難計画がない中で川内原発再稼働に反対する緊急署名」。現地事務所も市役所横の絶好の場所に設置されました。30km圏内9自治体は九電と安全協定を結んでいます。市が九電に意見を言うことができ、九電は誠実に対応すると明記されているのは、いちき串木野市と阿久根市だけです。

毎週土日が一斉戸別訪問日。5/10.11、5/17.18、5/24.25、5/31.6/1、6/7.8短期決戦です。署名は途中集まった分だけ、5/26の週に陳情書とともに、6月議会に提出されます。最終的には、6/9の週に総務委員会の議事が始まる前に全署名提出となります。

強硬に進められている再稼働の動きに、地元住民の圧倒的反対の声を突き付けなければなりません。1万3千世帯あります。50戸/日訪問として、全戸回りきるためには延べ260人が最低必要です。留守率50%として、2順するためには500人ということになります。大変ですが、むざむざ殺されるわけにはいきません。全国の皆さんに戸別訪問への参加、および資金カンパを要請します。よろしくお願ひします。

★運動資金カンパ 郵便振替 反原発・かごしまネット 01780-7-137859